

郷土を想う

校長 三村美延



5月1日は「さいたま市民の日」です。「市民一人ひとりが、郷土であるさいたま市の歴史や文化に親しみ、市民としての一体感とまちづくりに自ら参画する意識を高め、魅力あるさいたま市を将来にわたって創っていくことを期する日」として昨年制定されました。

学校では「総合的な学習の時間」を中心に、自分たちが暮らす地域への郷土愛をはぐくむ学習を行っています。令和4年度の学習を計画するに当たり、子どもたちが「郷土」をどのように捉えているのか把握するために、令和3年度末にアンケートを実施しました。

3年生(現4年生)に、新和地区はどんな所か聞いてみました。予想外なことに、「豊かな自然」と並んで「人」について回答した子が多かったのが驚きました。「まわりの人はみんな優しい」「安全を守る人たちがいる」「旗振りの人が笑顔で送ってくれた」と書いており、ボランティアの皆様が子どもたちに積極的に声をかけてくださっている姿が目につきました。そして、子どもたちは人との関わりの中で確かに育っているのだと確信し、嬉しく思いました。

4年生(現5年生)には「さいたま市」について、5年生(現6年生)には「日本」について聞きました。どちらも「自然が多くて住みやすい。平和な所だ。」と答えた子が多く、恵まれた環境での暮らしを実感していることが伺われました。

「郷土に関するアンケート」は全学年で実施しました。予想外だったことの二つめは、20年後の様子を聞いた質問に、「コロナがなくなってほしい」と回答した子がどの学年にもいたことです。子どもたちは普段は何も言わないけれど、実は不自由な思いを抱えていたのです。

私たち大人は、子どもの心のあり様にいっそう注意を向けなくてはならないと改めて感じました。そして、子どもたちが「見えないストレス」から心を解放できるような環境をつくり、ストレスを上回るくらい楽しく充実した学習活動を行っていきたくと強く思いました。

「郷土」「町」という言葉には、そこで暮らす人々も含まれることを、子どもたちは感覚として理解していることが、アンケートの回答から分かりました。ホタル放流や栽培活動等の体験学習のほか、登下校の見守りや学習のボランティア等で子どもたちとかわっていただくことが、地域への理解を深めていくことにつながっているのでしょう。「新和っ子」の確かな成長のために、かわらぬご支援をお願いいたします。



昨年、偶然にも、新和小学校校歌の作詞家である田口智さんの「お孫さん」と出会いました。校外学習で訪れた、大宮盆栽美術館の職員の方です。その方ご自身も新和小学校の卒業生だということでしたので、別れ際に励ましの言葉をお願いしたところ、本校の子どもたちの前で校歌を歌い、おじいさま(作詞家)が校歌に込めた平和への願いを語ってくださいました。

5月25日は本校の開校記念日です。校歌の歌詞をかみしめながら、世界中から争いがなくなれることを心から願います。

*本校の校歌を学校Webページで聴くことができます。